

アイソスの
回文かるた

そいつははっ
い

そ

そ

first message from ISOs



mindmi

*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。



そいつは 初^{イソ}ISO

「そいつは初耳」という言い方がありますが、ISO分野で初めて聞く現象なら「そいつは初ISO（イソ）」と言うのはいかがでしょうか。今、日本で起こっている初ISO現象をみると・・・

企業の中で社員としてISO推進のリーダーをつとめ、その推進活動が一段落すると、今度は別の企業に転職し、そこでまた新たにISOに取り組んでいる方がいます。この人は本誌に寄稿していただいたこともある人ですが、非常に珍しい生き方です。ある一定の役割を終えたと、さっさとその企業を辞めて、次の新天地でISOを立ち上げる。雇い入れる会社側も、コンサルタントを雇うのとは違った役割を、この人に期待しているのでしょう。ISO人の新しいタイプです。

最近、ISO審査を草創期から頑張ってきた審査員の中から、審査機関を自ら起こして、その社長になる人が出てきました。良い審査をするには、もちろん個々の審査員が奮闘しなくてはなりませんが、審査機関のマネジメントがいいかげんだと限界があります。そこで、良い審査をするための審査機関を自分でつくろうという世代が出てきたわけです。そのような経緯で誕生した審査機関は、いずれも小規模ながら、粒ぞろいの審査員を擁しています。

最後にもう1話。審査機関は、対外的には審査登録を行う機関ですが、対内的には審査員の教育・訓練機関でもあります。日本でEMS審査が始まった頃、数多くの優秀なEMS審査員を世に送り出すことに最も貢献した審査機関として、SGSの名をあげることができます。そして現在、情報セキュリティマネジメントシステム審査員の育成を一手に引き受けている審査機関がBSIです。では、これから、どの分野で、どの審査機関がリーダーシップをとって審査員を育てていくのでしょうか？それは、2002年の初ISOとして、楽しみに取っておきましょう。